

令和 6 年度 自己評価・学校関係者評価

令和 7 年 2 月 28 日

新富町こども園

1 教育目標

いきいきとやる気を持って遊ぶことができ 自立心のある子どもに育てる

2 めざす子どもの姿 ～生きる力の基礎を培う～

- 1、明るく健康な子
- 2、自立心があり、周りの人のことをよく理解できる子
- 3、身の回りの事物に関心を持つ子
- 4、言葉をよく理解し、上手に使える子
- 5、積極的に表現のできる子

3 重点目標

～やってみよう おもしろいな～
遊びこみ、次につながる環境

4 評価項目の達成及び取組状況

よい A-B-C-^{努力したい} D

評価項目	結果	理 由	関係者評価
①保育の充実	A	子どもたちの思いに寄り添いながら、1人ひとりが自分を発揮しながら夢中で取り組める保育を目指して取り組んできた。 昨年度から実施した姉妹園交流は、年中組にも対象を広げ、年 5 回実施。初対面の友だちとのかかわりは貴重な経験となった。 また幼児組を対象に給食参観を実施。実際に園で提供している給食を味見し、食事の様子を参観したことで家庭とはまた違う子どもたちの姿を見ていただくことができた。 年間を通しておおよそのベースができてきたので、学年ごと年齢に合わせた配慮をしながら日々の保育計画を組み立てている。 幼児期の実体験がその後の学校生活にも大きく影響していることを改めて感じた。自信を持って新たな一歩を踏み出せる支えとなれるよう努力していきたい。	A 給食参観は、親子にとって楽しい時間だったことと思う。忙しい中と思うが、親子が園でかかわったり、成長を見てもらったりする経験は大事にしたい。姉妹園交流もぜひ長く続けてほしい。
②保育の計画性	B	限られた時間の中でいかに効率よく進められるかが、大きな課題であるが、チームワークを図り、声を掛けあいなが	A チームワークを

		ら取り組むことができ、結果、余裕をもって行事等に臨むことができたと思う。 職員一人ひとりがまわりにも目を向け、皆で支え合う姿勢をこれからも徹底していきたいと思う。 縦割り活動は一緒に日々散歩に出かけ、声を掛けあうなど、園児数がそれほど多くないので、日常的にかかわりが持てていると思う。年間を通じた計画を作成し、見通しを持ったかかわりを考えていきたい。	図りながら、計画的に取り組む姿勢は感心する。忙しい中だが無理なく子どもたちのために頑張ってもらいたい。
③保育のあり方 こどもへの対応	B	私たち保育者は子どもたちのいちばん身近にいる存在となる。子どもの良きモデルとなれるよう、言葉遣いや態度など十分に気をつけていきたい。 良かれと思っての行動も、不適切保育と隣り合わせであることを忘れてはならない。自分で、クラスで、園全体で律し、より良い保育を提供できるようにしていきたい。	A 受け止め方の違いがあると思うが、確認しながら同じ対応ができるようにすることが大切。
④教師としての 資質能力、 適性など	B	研修も多く開催されるようになり、情報収集や研鑽を積む場となっている。しかし、職員配置の事情もあり、参加を見送る機会も多い。経験年数の少ない職員を対象にした研修会は年間に多く開催されるが、他の職員も研修に参加できる機会を設けていきたい。また学んできたことを職員会議で他の職員にも伝え、学びを共有してきた。 多くの人がかかわるため、責任の所在が不透明で、片づけが疎かになることや知らぬ間に物品の故障や紛失もある。それぞれが細かいところまで気を配る、それを他の職員にも伝えながら全体の意識を向上させていきたい。	A 学びを共有することも大切。多数の職員がかかわるが、それぞれが意識を持ち取り組んでいきましょう。
⑤保護者への 対応	B	日々の伝え方はこれまでと変わらず、玄関ボードや月々のお便り、HP等による。登降園の限られた時間の中でゆっくりとお話することは難しいが、個々に様子を伝えさせていただき、園と家庭との情報共有を心掛け、子どもたちの育ちを支えていきたい。 伝え方については、配慮も要する。過度に心配を与えないように留意する、また相手がどんな風に感じるかも常に考え、保育者としての言動に責任を持たなければならない。保護者から受けたことをきちんと周りに伝え、伝達ミスの無いように十分注意したい。	A 様々な職員が対応するので、間違いを起こさないためにも情報伝達の仕方は工夫が必要。臨機応変の対応をしたい。
⑥地域の自然 や地域との かかわり	A	今年度も地域の方々との交流の場を設けることができた。地域の皆様に温かく見守っていただけていることをありがたく思う。 散歩で近隣の公園等にもよく出かけ、遊ぶ中で季節の移り変わりに感じている。 幼児組は今年度も、園バスを借り、園外保育やじゃがいも、	A 会に参加した方からも楽しかったとの声が多数あり、地域の方も楽しみにしてい

		大根の収穫を実施。バスでの外出が子どもたちにとって大きな楽しみになっている。日頃とまた違う体験が貴重な機会となっている。	る。今後も開かれた園であってほしい。
⑦研修と研究	B	園内研修は、2か月に1度程度実施。各クラスの保育を参観し、事前事後にも話し合いをしている。保育中の実施のため、全員が参加できるわけではないので、書面にて共有をするようにしている。勤務体系は様々だが、子どもにかかわる者としての自覚を持ち、意識を高めていきたい。教材研究については、物の特徴をよく理解し、保育に取り入れていきたい。そのためにも以前と同じではなく、常に情報収集を行い、その情報を更新していくことが大切である。	A 忙しい中だとは思いますが、新しい情報も収集しながらよりよい保育を目指してほしい。
⑧アンケート	B	給食参観をした保護者からは、「野菜もよく食べていて驚いた」「園生活を楽しんでいることがわかり安心した」等の声が寄せられ、家庭でも作ってみたいとレシピを教えてほしいという声もあがった。実際に口にしてもらうことで、親子の会話も弾んだことと思う。日頃仕事で慌ただしい日々だと思うが、参観の場で時間を共有したり、他の保護者と交流したりすることは貴重な経験となったと思う。各月の誕生会、運動会、発表会等へ参加した保護者からも、成長を喜ぶ多くの感想が寄せられた。子どもたちにとって大切なことを無理なく実施していくために工夫や検討をしていきたい。 未就園児を対象に子育てウィークや子育てサロンを実施。少人数ではあるものの母親同士で話をし、交流の場となっている。	A 保護者からも好意的な感想がたくさん寄せられ、園と家庭とが良く協力できている。連携を図りながら子どもの育ちを支えてほしい。

5 本年度のめざす子どもの姿および重点課題の総合的な評価結果

様々な体験を通して嬉しい、楽しいだけではなく、悔しい、悲しい思いも感じ、日々成長を積み重ねてきた。豊かな経験の中で掲げる目指す姿は概ね達成されていると思う。

子どもたちが自ら「やってみたい」「おもしろそう」と意欲的に取り組む力を大切にしながら保育を進めてきた。経験を次につなげることを保育者がきちんと認識することで、目の前の経験でとどまらず、その先に経験に結びついてく。結果ばかりが目に入りがちだが、その過程の中で培っていること、経験し培ったものを保護者にも伝えていきたい。

新富町の子どもたちの強みである“遊びに向かっていく力”を大切にしながら、今後も一人ひとりの成長を支えていきたい。

課題	具体的な取り組み方法
より豊かな経験を	姉妹園との交流会は今後も継続していきたい。子どもの育ちのみならず、保育者にとっても多くの学びがあったと思う。互いの園を行き来しながら交流を深めて、いろいろと友だちと過ごす楽しさを感じてほしい。引き続き、散歩にもたくさん出かけたい。車移動が多い子どもたちなので、歩く経験を大切にする。地域に親しみを持ち、季節の移り変わりに気づくなど、感性を培っていきたい。
異年齢のかかわりの充実	異年齢児とのかかわりは遊びを広げる大きな力を持っている。低年齢児においても場を共有することで学ぶものは大きいので、成長に合わせ、柔軟に取り入れていきたい。 より親しみを持ち、日々のかかわりがさらに広がってくることを願っている。
職員力の向上 人材確保	中学生の職場体験も積極的に受け入れている。未来ある子どもたちを育てるこの仕事の魅力を大いに発信し、興味を持ってもらえるよう努力していきたい。保育実習生の受け入れも積極的に行い、保育の仕事の魅力を感じてもらい、就職につなげられたらと思う。また就職フェアにも参加し、園の魅力を発信し、学生の方とのつながりを作りたい。各関係機関とも連携を図り、人材確保に努めていくことが課題。
思いやりの気持ち 気持ちの良い挨拶	自己主張をすることは上手だと思うが、その言葉を言われたら相手はどんな思いをするだろうという思いが弱いように感じることもあり、思いを強く通そうとするあまり、相手を傷つけてしまうことも少なくない。相手の言葉や思いにも耳を傾けることの大切さを折に触れ、伝えていきたい。 毎朝、挨拶をして出迎えている。子どもだけでなく、保護者も含め、気持ちの良い挨拶を交わして一日をスタートできるようにしたい。単語でのやりとりが増えているが、引き続き言葉を補いながら、園目標にもあるように「上手に言葉がつかえる子」を目指したい。

評議員の皆様より	挨拶も元気よくでき、1人ひとりの表情も生き生きとしていて、日々充実した保育が行われている表れだと思う。課題は見つからないほど努力していると思うが、今後もよりよい保育を目指し、協力して取り組んでほしい。場面場面での配慮が成長につながっている。常に細やかな配慮を要し、大変だと思うが、子どもたちのために励んでほしいと願う。 非常時に備え、避難訓練を積み重ねているとのことで安心した。いつ何が起こるかわからない昨今だが、引き続き備えてほしい。 中学生の職場体験や学生の保育実習も積極的に取り入れているとのことだが、この仕事の魅力を大いに発信し、保育の道を志してもらえるようにしたい。近隣に様々な学校があるので、つながりを持つ方法も模索したい。(特に高校)
----------	--